

数学科学習指導案（略案）

平成 28 年 11 月 18 日（金） 2 校時
 高等部数学Bグループ 男子4人 女子3人 計7人
 場所 高等部 1 年 教室
 指導者 中村寛治（CT） 吉元まお里（ST）

1 題材 「お金を数えよう・買物をしよう」

2 本時の実際（7／12）

(1) 全体目標

品物の値段を位取り表に数字で書いて金種と対応することで、ちょうどの金額になるように硬貨を並べることができる。

(2) 個人目標

生徒	個人目標
A (1年, 男)	選んだ品物の値段と位取り表に書く数を一致させ、位に合った硬貨を選んで並べることができる。
B (1年, 女)	選んだ品物の値段を位取り表に書き、混在する複数の硬貨（1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨）の中から各位に合った金種と数を選んで表すことができる。
C (2年, 男)	選んだ品物の値段を読んで、全ての金種の中から複数の硬貨を組み合わせてちょうどの金額になるように硬貨を並べることができる。
D (2年, 女)	品物の値段を位取り表に書き、各位に書いた数字と位に対応した硬貨の数を合わせるることができる。
E (3年, 男)	品物の値段をよく見て、位を確認しながら表に書き写し、各位に対応した硬貨を数えながら並べることができる。
F (3年, 男)	選んだ品物の値段を見て、位の位置を確認しながら表に書き、複数の硬貨（1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨）の中から各位に合った金種を選んで表すことができる。
G (3年, 女)	選んだ品物の値段を位取り表に書き、5円硬貨や50円硬貨、500円硬貨を組み合わせてちょうどの金額になるように硬貨を並べることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

前時までに生徒たちは、硬貨を金種ごとに弁別したり、指定された硬貨と枚数を一致させたりする学習を通して、硬貨の種類を理解し、「○円玉を□枚」と指定された硬貨の種類と枚数を合わせるできるようになってきた。

そこで本時は、品物の値段を読み、それに合った硬貨を並べる学習を通して、数の位に対応した硬貨を選んだり組み合わせたりして、ちょうどの金額になるように硬貨を並べることができるようにしたい。具体的には、以下のような指導及び支援を行う。

<導入>

- ・ Eには、お金カードを示して何円硬貨か尋ねることで、前時までの金種の理解を確認するとともに、本時でも硬貨を扱うことを意識付けることができるようにする。その際、正誤の確認を他の生徒が行うようにすることで、生徒同士の学び合いの場になるようにする。**思・判**、**表**、**関**
- ・ 実態に合わせた個別のプリント課題に取り組むことで、前時までの復習を行うとともに、本時の学習への意欲を高めることができるようにする。**基**、**表**

<展開>

- ・ A, D, Eは3種類の硬貨（1円硬貨、10円硬貨、100円硬貨）をあらかじめ金種ごとに容器に分けて配布することで、そこから数を数えて位取り表の各位の数字と硬貨の数を正しく対応できるようにする。**基**、**思・判**
- ・ B, Fは、一つの容器に入った3種類の硬貨（1円硬貨、10円硬貨、100円硬貨）から必要な硬貨を選んで正しい位に対応できるようにすることで、実際の買物をする際に財布から硬貨を取り出すことにつながられるようにする。**基**、**思・判**
- ・ C, Gは、品物に応じて硬貨の数を調整したものを渡して、5円硬貨・50円硬貨・500円硬貨を扱う際は等価関係を表した変換シートを使い、ちょうどの金額が理解できるようにする。**基**、**思・判**

<終末>

- ・ 本時で正しくお金と対応することができた品物をお互いに発表し合うことで、達成感を味わったり、次時の学習への意欲を高めたりすることができるようにする。**表**

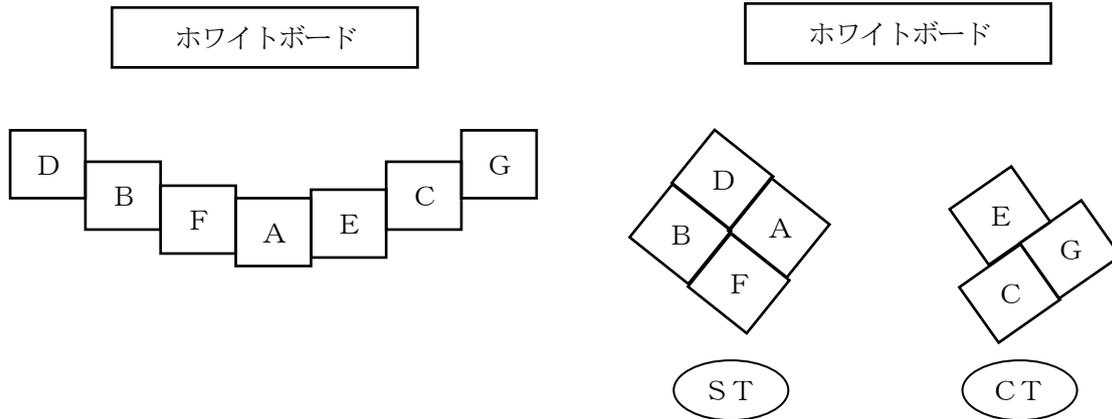
(4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (15分)	1 始めの挨拶をする。 2 前時までの学習を振り返る。 3 個別のプリント課題に取り組む。 4 本時の学習を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ねだんをみて、ちょうどの おかねをだそう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ファイルを確認することで、前時までの学習を振り返ることができるようにする。 ・ お金の弁別についての課題に取り組むことで、前時までの学習の定着を図りながら本時の学習に生かすことができるようにする。 ・ めあての提示では、「ちょうどの部分を穴埋めにする」ことで、お金をちょうどう出す活動だということを意識することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ファイル ・ お金カード ・ タイムタイマー ・ プリント
展開 (30分)	5 品物の値段を読んで、お金を並べる。 (1) 教師が行うお金を使った操作を見る。 (2) メニュー表から品物を選んで位取り表に値段を書く。 (3) 位ごとにお金を並べる。 (4) 合っているかどうか教師や友達と相互に確認をする。 ※ (2)～(4)を繰り返す。 6 正しくお金と対応できた品物の中から一つ選んで発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に利用しているハンバーガーショップのメニューを扱うことで、休日や校外学習での買物をイメージして学習への意欲を高めることができるようにする。 ・ 個に応じて品物の数や種類の異なったメニュー表を配布し、それぞれの課題に応じた金種の選択ができるようにする。 ・ 実際の買物でも活用することができるように、お金は実物の硬貨を使用する。 ・ A, B, D, FにはSTが、C, E, GについてはCTが指導する。 ・ お金を並べる場面では、生徒自身が思考・判断できるように、言葉掛けのタイミングを工夫する。 ・ (4)では、進捗状況に応じてグループの友達とお互いに確かめができるようにすることで、本時の学習への理解を深めることができるようにする。 ・ 模擬のお金カードを使用し、ホワイトボード上で操作することで、達成感を味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メニュー表 ・ お金 ・ 位取り表 ・ マーカー ・ 品物カード ・ お金カード
終末 (5分)	7 本時の学習を振り返り、次時の予告を聞く。 8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で正しくお金を並べることができた品物を紹介することで、学習の達成度を振り返ったり、次時の学習への意欲につなげたりすることができるようにする。 	

(5) 場の設定

導入, 展開4・6, 終末

展開5



(6) 評価

ア 全体目標

品物の値段を位取り表に数字で書いて金種と対応することで、ちょうどの金額になるように硬貨を並べることができたか。

イ 個人目標

生徒	個人目標
A (1年, 男)	選んだ品物の値段と位取り表に書く数を一致させ, 位に合った硬貨を選んで並べることができたか。
B (1年, 女)	選んだ品物の値段を位取り表に書き, 混在する複数の硬貨 (1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨) の中から各位に合った金種と数を選んで表すことができたか。
C (2年, 男)	選んだ品物の値段を読んで, 全ての金種の中から複数の硬貨を組み合わせてちょうど金額になるように硬貨を並べることができたか。
D (2年, 女)	品物の値段を位取り表に書き, 各位に書いた数字と位に対応した硬貨の数を合わせることをできたか。
E (3年, 男)	品物の値段をよく見て, 位を確認しながら表に書き写し, 各位に対応した硬貨を数えながら並べることができたか。
F (3年, 男)	選んだ品物の値段を見て, 位の位置を確認しながら表に書き, 複数の硬貨 (1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨) の中から各位に合った金種を選んで表すことができたか。
G (3年, 女)	選んだ品物の値段を位取り表に書き, 5円硬貨や50円硬貨, 500円硬貨を組み合わせてちょうど金額になるように硬貨を並べることができたか。

授業計画シート (ver.4)

学部	教科等名	学習集団 (グループ名等)	題材名	総時数 (実施時期)
小・中 高	数学	Bグループ	お金を数えよう 買物をしよう	12時間(11月・12月)

題材の全体目標
○ 硬貨を金種ごとに分けて対応する位に並べたり、数えて並べたりして、お金と百の位までの数字を対応させることができる。
○ お金の数え方や組み合わせ方について学習したことを生かして、値段を見てちょうどの金額で買物をするすることができる。

児童生徒名	個人目標	児童生徒名	個人目標
A	○ 硬貨を金種別に分けたり、提示された金額を見て、位に対応した枚数のお金を並べたりすることができる。 ○ 三種類の金種(1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨)から硬貨を選んで買物することができる。	E	○ 硬貨を種類別に分けたり、決められた数の硬貨を出したりすることができる。 ○ 硬貨の中から1種類の硬貨を選んで、ちょうどの買物することができる。
B	○ 2～3桁の数字を読み、三つの金種(1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨)を組み合わせでちょうどの金額にすることができる。 ○ 全ての硬貨の中から三つの金種(1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨)を選んで買物することができる。	F	○ 提示された金額を見て、位に対応した枚数のお金を並べて数えることができる。 ○ 三つの金種(1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨)から位に対応した硬貨を選んで買物することができる。
C	○ 3桁の数字を読み、異なる金種を組み合わせでちょうどの金額を出すことができる。 ○ いろいろな硬貨を組み合わせで買物することができる。	G	○ 提示された金額を見て、位に対応した枚数のお金を並べて2～3桁の数字を読むことができる。 ○ 硬貨の中から5円硬貨や50円硬貨、500円硬貨を組み合わせで買物することができる。
D	○ 3桁の数字を読み、複数の金種を組み合わせでちょうどの金額を出すことができる。 ○ 三種の硬貨(1円硬貨・10円硬貨・100円硬貨)を組み合わせで支払いをすることができる。		

指導計画				
指導内容<基礎・基本>	次	時数	学習活動	各教科等との関連
記入例：【書く：小ー3】単語を組み合わせ、主語と修飾語、述語を整えて文を作る。(全員)			<思考力・判断力・表現力/人間関係/主体性 を育む視点> ※学習活動の欄に該当する番号を記入する ①学習した知識や技能を主体的に使う / ②自分の考えを主体的に表現する / ③主体的に友達と協力・協働する	教科等/単元/題材/主な学習活動/内容
【実務：小ー3】 硬貨の金種が分かる。(A・E) 【実務：中】 全てのお金の種類が分かる。(B, C, D, F, G) 【実務：小ー3】 種類別に硬貨を分けたり、示された数の硬貨を選んだりする。(A, B, D, E, F) 【実務：高ー1】 全ての硬貨同士の等価関係が分かる。(C, G)	一	4	1 お金の金種を知る。① ・それぞれのお金の形と名前を一致させ、金種別に分ける。 2 お金を数える。② (1) 配られた硬貨を仲間分けして、それぞれの数を数える。 (2) 財布の中から指定された硬貨とその数(〇円硬貨を〇個)を選んで出す。	数学 「数えよう」 → 10までの数字を数える
【実務：小ー3】 1円硬貨, 10円硬貨, 100円硬貨を使って値段と同じ金額を出す。 (A, B, D, E, F) 【実務：小ー3】 いろいろな種類の硬貨を使って値段と同じ金額を出す。(C, G)	二	6	3 硬貨を使って、位取りの練習をする。 (1) 配られた硬貨を位取り表に対応させて、合計金額を表す。 (2) 金種の混在した硬貨が入った箱の中から自分で掴んだ硬貨を位取り表に対応させて、合計金額を表す。 4 品物の値段表示を読み、値段通りに金額を支払う練習をする。①②③ (1) 品物の値段(数字)を位取り表に書き写す。 (2) それぞれの位に書かれた数の硬貨を並べる。 (3) 金額を声に出して支払う。 ※ (1)～(3)の流れで、段階的に硬貨の種類を増やしていく。 ※ 個別 → ペア → 全体 で学習を行う。	生活単元学習 「みんなで出掛けよう」 校外学習での実際の買物 作業学習 「校外販売会をしよう」 製品の販売活動 作業学習 「ふとくフェスティバルで製品を販売しよう」 製品の販売活動
【実務：小ー3】 1円硬貨, 10円硬貨, 100円硬貨を使って買物をする。(A, B, D, E, F) 【実務：小ー3】 全ての硬貨を使って買物をする。(C, G)	三	2	5 模擬買物をする。②③ (1) 商品の中から自分の買いたい物を選び、ちょうどの金額で買物をする。 (2) 買う役と売る役に分かれて、ちょうどの金額で買物をしたり、ちょうどこかどうか確かめたりし合う。	

<年間指導計画との関連>
○基にした年間指導計画 <高・数(4段階)「お金を数えよう・買物をしよう」> <中・数(4段階)「お金を数えよう」> <中・数(5段階)「お金を支払おう」>

<実施時期や時数に関する評価>	
○実施時期 適 当 ・ 要検討 (頃)	○必要と思われる時数 適 当 ・ 要検討 (時間程度必要)

ミーティング	授業研究会
<例：○/(総時数)>	<例：○/(総時数)>